教授

遠藤　潤　ENDO Jun

令和８年度担当科目　神道文化基礎演習　神道文化演習
神道思想史学Ⅰ・Ⅱ　宗教学Ⅰ・Ⅱ
宗教学演習Ⅰ・Ⅱ

宗教学演習テーマ　「19世紀以降の宗教･宗教文化･宗教的現象を考える」

出身地
兵庫県生まれ、神奈川県育ち

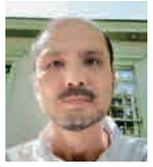
専攻領域
宗教学　日本宗教史

最終学歴
東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻博士課程単位取得

学位
博士（宗教学）

所属学会
神道宗教学会　日本宗教学会　日本思想史学会　明治聖徳記念学会

主な著書・論文
『平田国学と近世社会』（ぺりかん社、2008年）
「平田国学と幽冥思想―近世神道における死の主題化―」
（島薗進ほか編『日本人と宗教３　生と死』春秋社、2015年）
「平田篤胤『仙境異聞』の編成過程―〈語り〉と書物のあいだ―」
（『國學院雑誌』120-7、2019年）
「近代神道研究をめぐる諸相―柳田国男「神道私見」を視点として―」
（佐藤文子ほか編『日本宗教史６』吉川弘文館、2020年）
「平田篤胤の言説は社会的境界を越えたのか―藩･幕府･朝廷を焦点に―」
（久保田浩ほか編『越境する宗教史』上、リトン、2020年）



テキストを ていねいに読もう

私は、宗教現象が語られたり書かれたりすることに興味を持っています。そこから、ことばを大切に取り扱いたいと思うようになりました。

宗教学や神道学に限らず、人文学のどの学問でも一番の基礎となるのは、原典であれ論文であれ、文献を正確に理解しようと努める姿勢です。学生のみなさんは日々忙しく感じているかもしれませんが、学生生活を離れてみれば、学生時代はかなり時間の余裕がある時期だったことがわかります。せっかくのこの時期に、ものをていねいに読んで、じっくり考えて下さい。ゆっくりやってできないことは、急いでやってもなかなかうまくできないのではないでしょうか。あせることもあるでしょうが、むしろ「時間をかけられるのは今だけ」と覚悟を決めて下さい。（よい意味で）慣れてきたら、スピードも自然に上がってくることでしょう。

教授

加瀬 直弥　KASE Naoya

令和８年度担当科目　祭祀学Ⅰ・Ⅱ　祭祀学特殊講義
宗教行政研究Ⅱ　神道史学演習Ⅰ・Ⅱ
神道学演習Ⅰ・Ⅱ　祭祀学（専攻科）

神道史学演習テーマ　「神道と他宗教・外来宗教の関係」

出身地
神奈川県横浜市

専攻領域
古代・中世神道史

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

学位
博士（神道学）

所属学会
神道宗教学会　神道史学会　国史学会

主な著書・論文
『古代の神社と神職』（吉川弘文館、平成30年）
『平安時代の神社と神職』（吉川弘文館、平成27年）
『日本神道史〈増補新版〉』〈共著〉（吉川弘文館、令和３年）
『丹生都比売神社史』〈共著〉（同神社、平成21年）
『古代諸国神社神階制の研究』〈共著〉（岩田書院、平成14年）



体得を大事にする

小学生のころから日本の歴史に興味があった。やがて、古い時代を体得したいと思うようになり、各地をめぐるようになった。その際、神社は歴史を特に物語っているように見えた。最初は漠然とした関心だったが、大学在学中に神道の歴史を研究しようと考え、今に至る。幸い、関心がつとめに結び付いたが、その決め手は自身の信念や努力ではなく、心ある方々による有形無形の理解と支援だった。

人に示せる確たる信念を持ち、計画的な将来設計のもとで人生を歩むことは素晴らしいことだと思う。私にはできなかった。人生に無駄はないんだと思いながら体による経験だけで何とかなっている、というのが、今までを振り返った率直な感想である。

教授

黒﨑 浩行　KUROSAKI Hiroyuki

令和８年度担当科目　神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ※
神道教化システム論　宗教学演習Ⅰ・Ⅱ
※旧カリキュラム科目（令和７年度までの入学生対象）

宗教学演習テーマ　「現代社会の諸課題と宗教文化」

出身地
島根県松江市

専攻領域
宗教学　宗教と情報　現代神社と地域社会

最終学歴
大正大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得

学位
博士（宗教学）

所属学会
日本宗教学会　「宗教と社会」学会　神道宗教学会

主な著書・論文
『神道文化の現代的役割―地域再生・メディア・災害復興―』
（弘文堂、2019年）
「地域社会と神社・祭り―人口減少と地域再生の中で」
（堀江宗正責任編集『いま宗教に向きあう１　現代日本の宗教事情　国内編Ⅰ』岩波書店、2018年）
『震災復興と宗教』（共編著、明石書店、2013年）



つながりのなかで学ぼう

平成23年３月11日に発生した東日本大震災、令和６年１月１日に発生した能登半島地震をはじめとして、近年、大きな災害が頻発している。多くの人たちが救援・支援のために現場へかけつけ、そこで失われた命の鎮魂と、復興に向けたさまざまな支えあいのつながりが生まれている。宗教者・宗教団体や地域の宗教文化は、そこでどのような役割、働きをなしうるか、が課題として浮かび上がっている。

また、それはひるがえって日常の地域社会における宗教の関わり方にも再考を促すものとなっている。

研究者として、またときに学生を引率する者のひとりとしてこうした現場に関わりながら、ともに学んでいくことを大切にしていきたいと考えている。

教授

小林 宣彦　KOBAYASHI Norihiko

令和８年度担当科目　神道史学ⅠA・ⅠB　古典講読ⅡA・ⅡB
神道文化基礎演習　神社祭祀演習ⅢA
神道史学演習Ⅰ・Ⅱ
國學院の学び（日本文化と装束）

神道史学演習テーマ　「神社・祭祀・儀礼・神話・信仰などを考察する」

出身地
栃木県

専攻領域
古代神道史　神道古典　有職故実

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

学位
博士（宗教学）

所属学会
神道宗教学会　明治聖徳記念学会　古事記学会　神道史学会

主な著書・論文
『律令国家の祭祀と災異』〈単著〉（吉川弘文館、平成31年）
「日本古代における死霊の特徴について―神霊と陵霊との比較検討から―」〈単著〉（『國學院雑誌』第125巻第９号、令和６年）
『日本神道史〈増補新版〉』〈共編著〉（吉川弘文館、令和３年）
事典『古代の祭祀と年中行事』〈共著〉（吉川弘文館、平成31年）
國學院大學貴重書影印叢書　第４巻『日本書紀　古語拾遺　神祇典籍集』〈共著〉（朝倉書店、平成28年）



慎みて怠ることなかれ

神社の長男として生まれ、大学生の時に神職講習会で正階を取得し、卒業後、神道学専攻科に進学して明階を取得しました。その後、大学院に進学し、本格的に神道について研究しました。大学院修了後は、兼任講師として研究にも携わっていましたが、実家に戻り神職として奉仕することで、神道の理論と実践を兼ね備えることができました。「神道とは何か」･「神社の社会的役割とは何か」･「神職のあるべき姿とは何か」これらの命題を考え続けることが、自身の研究にも大きな影響を与えました。

学生の皆さんには、在学中に学びの楽しさと苦しさを経験してもらいたいと思います。その経験が、きっと皆さんの人生の糧になるでしょう。

教授

笹生　衛　SASOU Mamoru

令和８年度担当科目　宗教考古学Ⅰ・Ⅱ　神道史学演習Ⅰ・Ⅱ
神道史学演習テーマ　「考古学資料から考える神・霊魂と儀礼・祭祀」

出身地
千葉県

専攻領域
日本考古学　日本宗教史

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程前期修了

学位
博士（宗教学）

所属学会
日本考古学協会　祭祀考古学会　神道宗教学会

主な著書・論文
『まつりと神々の古代』〈単著〉（吉川弘文館、令和５年）
『神と死者の考古学』〈単著〉（吉川弘文館、平成28年）
『日本古代の祭祀考古学』〈単著〉（吉川弘文館、平成24年）
『事典　神社の歴史と祭り』〈共編〉（吉川弘文館、平成25年）
『亀卜』〈共著〉（臨川書店、平成18年）
『神仏と村景観の考古学』〈単著〉（弘文堂、平成17年）
『平安時代の神社と祭祀』〈共著〉（国書刊行会、昭和61年）



元気に楽しく！

昭和36年、千葉県生まれ、代々続く農家で育ちました。國學院大學文学部神道学科から大学院へ。その後、千葉県教育庁に就職。埋蔵文化財の発掘調査と保護行政、青少年教育や県立博物館の学芸員、指定文化財の保護行政も担当し現在に至っています。

私は、古代・中世の宗教・信仰を考古学の視点から分析し、その実態を明らかにしようという研究をおこなっており、遺跡・遺物の考古資料から神仏への信仰を、かつての環境・景観の中で具体的に復元することを目指しています。それは、日本文化を考える上で不可欠な要素であり、新たな日本宗教史、神道史を描くことにもつながると信じています。日本文化や神道の歴史を、新たな視点から一緒に考えていきましょう。

教授

菅　浩二　SUGA Koji

令和８年度担当科目　神道概論Ⅰ・Ⅱ　神道と環境Ⅱ
神道と国際交流Ⅰ　神道学演習Ⅰ・Ⅱ
英語Ⅲ・Ⅳ　日本文化を知る（文化芸術振興論）
神道学演習テーマ　「近現代社会における神道・宗教の位置」

出身地
兵庫県

専攻領域
宗教とナショナリズム論　近代神道史　歴史社会学

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

学位
博士（宗教学）

所属学会
神道宗教学会　日本宗教学会　「宗教と社会」学会　明治聖徳記念学会　他

主な著書・論文
『日本統治下の海外神社』（弘文堂、平成16年）
「冥王星と宇宙葬」（『共存学３』弘文堂、平成27年）
「沖縄・伊平屋列島の天神降臨伝承と藤貞幹『衝口発』」
（『國學院雑誌』124（5），2023）
「W・P・ウッダードのKokutai Cult論に関する考察」
（『宗教研究』97（2），2023）
「靖國神社と福祉国家」（『国家神道と国体論』弘文堂、令和元年）
「巨大ロボットと宗教」（『巨大ロボットの社会学』法律文化社、令和元年）
The Covid Pandemic and the World's Religions. (Bloomsbury, 2023)（共著）



神社へのお参りは、自分と世界を結ぶ道の第一歩

人間と社会の姿が〈宗教〉に結ぶ像を通して、この時代と未来を考えましょう。そのためには歴史や言葉の勉強も、世界を知ることも重要です。何も努力せずには、何も身につきません（↑自分向けにも言っています…）。

先人たちが、長い時間をかけて神々との関係を形にした「神道」は、現代の私たちにとっても大切な知恵の表われです。身近な神社へのお参りを、自分と世界のあいだを結ぶ道の第一歩を踏み出すこと、と考えてみて下さい。その道の向こうには、家族、仲間、地域、民族、くに、人類、環境…と、色々な共同性が見えています。

人の生活において、共同の意識を形作るものは何でしょうか。過去と現在がつながっているという思いは、なぜどこから生じるのでしょうか。いろんな関心を持って一緒に学びましょう。研究者として、また一人の神道人として、私も学び続けます。

教授

武田 秀章　TAKEDA Hideaki

令和８年度担当科目　神道史学演習Ⅰ・Ⅱ　神道史学ⅡＡ・ⅡＢ
古典講読ⅠＡ・ⅠＢ　神道史（専攻科）
神道史学演習テーマ　「『古事記』を読み直す、神道・国学の歴史を見直す」

出身地
神奈川県鎌倉市

専攻領域
近世・近代神道史　国学史　神道古典

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

学位
博士（神道学）

所属学会
神道宗教学会　明治聖徳記念学会

主な著書・論文
『日本型政教関係の誕生』（共著、第一書房、昭和62年）
『維新期天皇祭祀の研究』（大明堂、平成８年）
『霊魂・慰霊・顕彰―死者への記憶装置―』（共著、錦正社、平成22年）
『モノと心に学ぶ伝統の知恵と実践』（共著、國學院大學、平成24年）
『近代の神道と社会』（共著、弘文堂、令和２年）



内なる芽を豊かに結実させてゆきましょう

鶴岡八幡宮のお膝元・鎌倉で生まれました。國學院で神道を学んだのち、神社新報社に就職し、ついで神社本庁に転出しました。本学に移ったのは、平成八年のことです。このように、神社・神道づくめの人生なので、ものごころついて以来、「神様とは何か」「祭りとは何か」「神道とは何か」という問いを考え続けてきました。

神道は、「天地初発」（『古事記』）以来、連綿と蓄積されてきた日本人の生命記憶の総体です。神道を学ぶということは、この無限の生命記憶から、生きる力を汲み上げてゆくということにほかなりません。かけがえのない「内なる芽」を、生涯かけて大切に育み、豊かに結実させてゆきましょう。健闘を祈ります。

教授

西岡 和彦　NISHIOKA Kazuhiko

令和８年度担当科目　神道概論Ⅰ・Ⅱ　神道神学Ⅰ・Ⅱ
神道思想史学Ⅰ・Ⅱ　神道学演習Ⅰ・Ⅱ
神道概論（専攻科）　神道神学（専攻科）
神道学演習テーマ　「出雲大社を多角的に概観する」

出身地
兵庫県

専攻領域
神道思想史学　神道神学

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

学位
博士（神道学）

所属学会
神道宗教学会　神道史学会　日本思想史学会　日本宗教学会　藝林會 ほか

主な著書・論文
『直毘霊を読む』（右文書院、平成13年、共著）
『近世出雲大社の基礎的研究』（大明堂、平成14年、単著）
『大社町史　中巻・年表』（出雲市、平成20年、共著）
『出雲大社の寛文造営について―大社御造営日記の研究―』
（島根県古代文化センター、平成25年、共著）
『建国の使命―「大祓詞」の神学―』（伊勢神宮崇敬会、平成29年、単著）
『江戸期『論語』訓蒙書の基礎的研究』（明徳出版社、令和３年、共著）
『増補版　神道の格言「かぎろい」抄（六）』
（大神神社三輪山叢書、令和６年、単著）　ほか



新入生のみなさんへ

神道を学ぶ者はきわめて少ない。みなさんは貴重な存在である。だからこそ、自身の生き方を大切にして欲しい。神道学は日本の神さまを調べるだけで無く、神習うことを必要とする。神さまの慈愛を受け止める感性を身につけ、それに感謝し、敬愛を以て各自の大切な使命を遂行するのが、いわゆる神道人である。

神道人とはなんと誇らしき響きであろう。だが、その誇りを確証しなければ、単なる空威張りになってしまう。そこで神道を学ぶのだが、自力でその確証が摑めるまでには、どうしても指導が必要である。それに応じるのが、本学部の使命であるから、みなさんも積極的に疑問を投げかけて欲しい。そして、一緒に考えよう。

教授

平藤 喜久子 HIRAFUJI Kikuko

令和８年度担当科目 比較文化学Ⅱ　宗教芸術研究Ⅱ
神道文化基礎演習　神道文化演習
日本文化を知る（日本文化論と日本神話）

出身地
山形県

専攻領域
神話学　宗教学

最終学歴
学習院大学大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻博士後期課程修了

学位
博士（日本語日本文学）

所属学会
日本宗教学会　「宗教と社会」学会　International Association for Comparative Mythology　神道宗教学会　ほか

主な著書・論文
『人間にとって神話とは何か』（NHK出版、令和７年）
『〈聖なるもの〉を撮る』（共編著、山川出版社、令和５年）
『神話の歩き方』（集英社、令和４年）
『現代社会を宗教文化で読み解く』（共編著、ミネルヴァ書房、令和４年）
『神話でたどる日本の神々』（筑摩書房、令和３年）
『ファシズムと聖なるもの/古代的なるもの』
（編著、北海道大学出版会、令和２年）
『世界の神様 解剖図鑑』（エクスナレッジ、令和２年）
『いきもので読む、日本の神話』（東洋館出版、令和元年）



書を持って旅に出よう！

わたしの専門は、「神話学」です。人が人としての心を持つようになったときには存在していたとされる神話について、さまざまな角度から考え、理解しようとする学問です。基本的には文献と向き合うことが多いのですが、実は、なにより大事にしているのは神話の舞台とされているところ、古くから聖地とされているところに旅すること。古代から人々が神聖だとしてきた場所、特別だと思ってきた地に立ったとき、神話の背景が理解できたような気になることもあります。このような旅の魅力にとりつかれたのは、大学一年生のときに出雲を訪れたのがきっかけです。学生時代には、時間を大いに無駄遣いし、状況の許す限り、知恵を絞って、身近なところからでも神々を感じる旅をして欲しいと思います。その体験を語り合うことを楽しみにしています。

教授

藤本 頼生 FUJIMOTO Yorio

令和８年度担当科目 神道史学ⅡA・ⅡB　神社管理研究Ⅰ・Ⅱ
神道学演習Ⅰ・Ⅱ　宗教行政概論（専攻科）
神道学演習テーマ 「近代から現代までの社会と神社・神道文化を考える」

出身地
岡山県

専攻領域
神道教化論　近代神道史　神道と福祉　都市社会と神社

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

学位
博士（神道学）

所属学会
神道宗教学会　日本宗教学会　「宗教と社会」学会　日本都市社会学会
宗教法学会　社会事業史学会　岡山地方史研究会　神道史学会
明治聖徳記念学会　社叢学会

主な著書・論文
『神道と社会事業の近代史』（単著・弘文堂、平成21年）
『神社と神様がよ～くわかる本』（単著・秀和システム、平成26年）
『地域社会をつくる宗教』（編著・明石書店、平成24年）
『よくわかる皇室制度』（単著・神社新報社、平成29年）
『鳥居大図鑑』（編著・グラフィック社、平成31年）
『明治維新と天皇・神社』（単著・錦正社、令和２年）
『東京大神宮ものがたり』（単著・錦正社、令和３年）
『現代「神道」講座』（単著・佼成出版社、令和６年）
『根津神社　重要文化財・奉納刀剣・宝物集』（監修・有栖川出版、令和６年）



神道のもつ多様性や多面的な価値を探そう

私は、地域に所在する神社と人々との関係や、社会貢献活動に関心を持ちながら、神道の宗教的・社会的な役割は何かという点について研究を進めてきました。なかでも近代以降の神社や神職にかかる法令や制度を中心に、神職の社会活動や神社の管理・運営、政治や行政との関係性についても研究を進めることで、近代、現代における神社神道の姿を明らかにしようと試みています。

グローバル化の波の中で、さまざまな価値観や考え方が混淆する現代の日本社会にあっては、今後ますます、様々な多様性を包含する聖なる箱のような存在である神道の理念やあり方が注目されるものと思われます。

全国津々浦々で行われている神祭りの姿や、それを形作る組織とネットワークの奥底にある人々の文化と信仰のありようを窺いながら、神社・神道のもつ多面的な価値を一緒に探してみましょう。

教授

松本 久史 MATSUMOTO Hisashi

令和８年度担当科目 古典講読ⅠA・ⅠB・ⅢA　国学概論Ⅰ・Ⅱ
神道学演習Ⅰ・Ⅱ　神道古典（専攻科）
神道学演習テーマ 「神社はどのように語られるようになったのか
―由緒記・縁起の形成と学問―」

出身地
栃木県宇都宮市

専攻領域
国学史　神道史

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

学位
博士（神道学）

所属学会
神道宗教学会　日本宗教学会　明治聖徳記念学会　他

主な著書・論文
『荷田春満の国学と神道史』（弘文堂、平成17年）
新編荷田春満全集編集委員会編『新編荷田春満全集』第１・３・12巻
（校注）（おうふう、平成16・17・22年）
『神話のおへそ　『古語拾遺』編』（執筆）（扶桑社、平成27年）
「前期国学の古事記研究」（『古事記學』第１号、平成27年３月）
『歴史で読む国学』（共著）（ぺりかん社、令和４年）



神道と日本を知る。そして、己を知る。

平成14年に本学の日本文化研究所助手を拝命し、21年度まで日本文化研究所・研究開発推進センターに所属し、22年度からは学部教員。近世の国学を中心とした神道・国学史を研究テーマにしています。神道を学ぶためには、古典をはじめとした幅広い知識が必要になります。特に１、２年生の間には、様々なことに関心を持ち、しっかりとした基礎教養を身につけてください。そのためのサポートをしっかりとしたいと思っています。その上で、３、４年生の時に、オンリーワンの得意分野を作ってください。世の中がどう変動しようとも、流されず、しっかりとした自分の根拠を持てるよう、勉強は勿論のこと、部活やサークル活動、神社奉仕等の社会活動にも励んでほしいと思います。

准教授

大道 晴香 OMICHI Haruka

令和８年度担当科目 宗教学演習Ⅰ・Ⅱ　宗教社会学Ⅰ・Ⅱ
神道と文化　神道文化演習
神道と情報化社会Ⅰ・Ⅱ＊　神社ネットワーク論Ⅰ＊
日本文化を知る（現代日本社会の「宗教」）
日本文化を知る（儀礼文化研究）
＊旧カリキュラム科目（令和７年度までの入学生対象）
宗教学演習テーマ 「〈聖なるもの〉とメディア」

出身地
青森県八戸市

専攻領域
宗教学　メディア論

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科博士課程後期神道学・宗教学専攻修了

学位
博士（宗教学）

所属学会
日本宗教学会　日本民俗学会　日本山岳修験学会　神道宗教学会
印度学宗教学会　日本出版学会　「宗教と社会」学会

主な著書・論文
『怪異と遊ぶ』（一柳廣孝・大道晴香編、青弓社、2022年）
「メディアのまなざしを拒む場所―視覚情報の欠如から「聖地」と「カメラ」の関係を考える」（藤野洋平ほか編『モノとメディアの人類学』ナカニシヤ出版、2021年）
「パワースポットのメンタリティー欲望と禁欲のはざまで」
（山中弘編『現代宗教とスピリチュアル・マーケット』弘文堂、2020年）
『「イタコ」の誕生－マスメディアと宗教文化』（弘文堂、2017年）



あなたの周りにある、まだ見ぬ世界を見つけよう

私は近現代の社会のあり方と宗教現象との関わり、特にメディアと宗教との関係に関心を抱いています。これまで新聞、大衆雑誌、マンガ、小説、映画、ライトノベルなどを対象に、宗教的なものがいかに描かれてきたのか、そして、メディアの中のイメージが、現実社会にいかなる影響を与えるのかについて考えてきました。

こんなに身近な対象が、宗教を知るうえで役立つの？と疑問に思った方もいるかもしれません。しかし、日頃意識しない、何気無い日常生活の一部だからこそ、そこには生き生きとした文化の姿が見てとれるのではないでしょうか。大学での学びを通じて、身近にありながらもまだ見えていない、新たな世界を発見してほしいと思います。

准教授

柏木 亨介 KASHIWAGI Kyosuke

令和８年度担当科目　神道文化基礎演習　神道文化演習
宗教学演習Ⅰ・Ⅱ　神道と文化
宗教人類学Ⅰ・Ⅱ　日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ
神道と環境Ⅰ　日本文化を知る(民俗宗教論)

宗教学演習テーマ　「民俗誌を読む」

出身地
東京都八王子市

専攻領域
民俗学　文化人類学

最終学歴
筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類学専攻修了

学位
博士(文学)

所属学会
日本民俗学会　日本文化人類学会　神道宗教学会　ほか

主な著書・論文
『阿蘇神社の夜明け前―神々とともに生きる社会のエスノグラフィー―』(藤原書店、2025年)
「フィールドで一緒に考えていくこと―阿蘇地域での時間の共有―」(『日本民俗学』321、2025年)
「真宗門徒の死者供養にみる民俗的心意―愛媛県今治市大三島町野々江のイハイを背負う盆踊り―」(『國學院雑誌』123-9、2022年)



驚きと発見を求めよう！

私の生まれは東京郊外。お盆になると同級生がイナカというところに行ってしまう現象を不思議に思っていたところ、たまたま読んだ玉勝間巻八「ゐなかに古へのわざののこれる事」に感化され民俗学を志し、大学生活を熊本で過ごしました。それから筑波山の麓で学位を得て、加藤清正公ゆかりの蔚山に渡韓、帰国後は上州草津の湯で心身を癒しながら研究生活を送りました。各地に遊学することおよそ四半世紀、人々の暮らしぶりを見つめながら社会規範と儀礼との関係を研究してきましたが、いずれの土地にも歴史があり個性的な文化と出会えます。驚きと発見は学問の醍醐味。この時代、この世の中を、みなさんの目で徹底的に見つめましょう。そして、書物を通して先人と語り合い、そこから驚きと発見と希望が得られることを期待しております。

准教授

加藤 久子 KATO Hisako

令和８年度担当科目　宗教学Ⅰ・Ⅱ　宗教学演習Ⅰ・Ⅱ
神道文化基礎演習　神道文化演習
宗教学概論(専攻科)　宗教概説(別科)

神道学演習テーマ　「私たちが生きているのはどのような社会か」

出身地
広島県竹原市

専攻領域
宗教社会学　宗教史　宗教文化論

最終学歴
一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻博士課程単位取得

学位
修士(社会学)

所属学会
日本宗教学会　日本社会学会　「宗教と社会」学会　他

主な著書・論文
「社会主義政権下での宗教実践―スターリン期ポーランドの新興工業都市の暮らし」(中野智世・前田更子・渡邊千秋・尾崎修治編『近代ヨーロッパとキリスト教―カトリシズムの社会史』勁草書房、2016年)
「共存の歴史として描かれたもの―ポーランドのユダヤ人の歴史博物館」(國學院大學研究開発推進センター編『共存学４』弘文堂、2017年)
「冷戦下での西ドイツ・ポーランドの和解に宗教はどう関与したのか」(共著、伊達聖伸編『ヨーロッパの宗教と世俗』勁草書房、2020年)
「公共宗教の光と影―ポーランドにおけるカトリック教会と公教育」(櫻井義秀編『アジアの公共宗教―ポスト社会主義国家の政教関係』北海道大学出版会、2020年)



古いことにも新しいことにも目を向けよう！

私は、近現代におきた／おきている政治や社会の変化に関心を持っています。特に、戦後の高度経済成長期に地方から都市に移住してきた人々の間で、新しい生活様式や価値観(消費社会の到来、仕事観や家族観の変容など)と、旧来の価値観や習慣、信仰心などがいかにせめぎあい、融合・調和したか、グローバル化する世界の中で宗教や宗教間の関係はどのように変化してきたか、などについて考えています。

変わるもの、変わらないものに気付くためには、同時代のさまざまな事象をよく観察することも大切ですが、歴史を知り、そのルーツをたどることもとても大切です。本で学ぶ歴史はもちろんですが、ご家族、アルバイト先や実習先で出会った方、近所の商店街の店主さんなど、身近な人が生きてこられた歴史(ライフヒストリー)に耳を傾ける機会もぜひ持ってください。

准教授

小濱　歩 KOHAMA Ayumu

令和８年度担当科目　派遣研究のため授業担当なし

出身地
広島県

専攻領域
神道古典

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

学位
博士(神道学)

所属学会
神道宗教学会　古事記学会　日本宗教学会　他

主な著書・論文
「『古事記』大宜津比売伝承の特色―海外神話及び『紀』所伝との対照において―」(『神道宗教』第230号、2013)
「『古事記』須佐之男命像の特色　―ウケヒ伝承を手がかりとして―」(『國學院大學紀要』第48号、2010)
「『古事記』神代における大物主神像についての一考察」(『國學院大學大学院紀要―文学研究科―』第40輯、2009)
「大物主神の神名と神格の関わりについて」(『神道宗教』第207号、2007)



学生の皆さんへ

私は社家の出身ではありませんが、幼い頃に出会った『古事記』の物語に惹かれて、大学の卒業論文で“何となく”伊邪那岐命の黄泉国訪問説話を取り上げました。大学院でも『古事記』の研究を続けて、思いもよらずこの不思議な古典と長く付き合うことになりました。大学教員になって十年あまり異なる分野の学問・業務に携わりましたが、神道文化学部に移り、改めて『古事記』をはじめ上代の神話を、新たな気持ちでゆっくり読み直してみたいと思っています。皆さんも、ぜひ、面白そうだと思うことを探して取り組んでみてください。それが意外と人生に大きな糧を、あるいは彩りをもたらしてくれるかもしれません。大学生活は楽しい半面、忙しいことも多く、悩む時期もあるかと思います。勉強だけでなく、よく食べ、よく眠り、よく笑ってください。

准教授

シッケタンツ エリック Erik SCHICKETANZ

令和８年度担当科目　世界宗教文化論Ⅰ・Ⅱ　東アジア文化研究Ⅰ・Ⅱ
Japan Studies　英語Ⅲ・Ⅳ　宗教学演習Ⅰ・Ⅱ

宗教学演習テーマ　「宗教と近代化」

出身地
ドイツアーヘン市

専攻領域
宗教学、近代日本宗教史、近代中国宗教史

最終学歴
東京大学大学院人文社会系研究科宗教学宗教史学専攻博士課程修了

学位
博士(宗教学)

所属学会
日本宗教学会　日本近代仏教史研究会　American Academy of Religion, Association of Asian Studies, International Association of Buddhist Studies

主な著書・論文
『堕落と復興の近代中国仏教：日本仏教との邂逅とその歴史像の構築』(京都：法蔵館、2016)
“Narratives of Buddhist Decline and the Concept of the Buddhist Sect (zong) in Modern Chinese Buddhist Thought,” in *Studies in Chinese Religion* 3:3, pp. 281-300, 2017
「近代中国仏教における宗派概念とそのポリティクス」(末木文美士・林淳・吉永伸一・大谷栄一(編)『ブッダの変貌―交錯する近代仏教』、87-108頁〈京都：法蔵館、2014年〉)
“Wang Hongyuan and the Import of Japanese Esoteric Buddhism to China during the Republican Period,” in Tansen Sen (ed.) *Networks of Material, Intellectual and Cultural Exchange vol. 1*, Singapore: Institute of Southeast Asian Studies, 2014, pp. 403-427.
「現代中国における清明節の復活―共産党政権の文化政策における祖先崇拝の位置づけについての考察」(『死生学研究』13号、183-216頁、2013年)



学生のみなさんへ

私はドイツ西部にあるアーヘンという町で育ちました。アーヘンはオランダとベルギーとの国境沿いにあり、行こうと思えばすぐでも異なる言語や文化を味わうことができる距離でした。大学生の時は、日本語と中国語を勉強し、アジアの諸文化に幅広い関心を持って受講した多くの授業の中で、とくに宗教に関する科目に興味を持ちました。ロンドン大学を経て東京大学の宗教学研究室に入学したのも、アジアにおける宗教と政治の関係を勉強したかったからです。近代における政治と宗教の領域は複雑な形で絡み合い、国境を越えた問題も抱えています。私は、近代の日中関係に興味がありますし、日中の宗教交流が他領域に与えた影響を現在の研究テーマにしています。でも、大学は学問だけではなく、たくさんのことを経験する機会でもあります。学生のみなさんにはいろんな方向に視野を広げて、社会のしくみをよりよく理解する機会にしてほしいと思っています。

准教授

鈴木 聡子 SUZUKI Satoko

令和８年度担当科目　神道史学演習Ⅰ・Ⅱ　神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ
古典講読ⅢＢ　神道文化基礎演習
神社祭祀演習Ⅰ　神社祭祀演習ⅢＡ
神社祭式同行事作法Ⅰ（別科）

神道史学演習テーマ　「神社の祭り（祭祀）を通して本質を探る」

出身地
千葉県市川市

専攻領域
古代・中世神道史、祭祀学

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程修了

学位
博士（神道学）

所属学会
神道宗教学会　日本宗教学会　「宗教と社会」学会

主な著書・論文
「神社年中行事形成の淵源」（『國學院雑誌』第123巻第12号、令和４年）
「神社年中行事の形成背景―節日神事を中心に―」
（『國學院雑誌』第122巻第10号、令和３年）
「神社年中行事の形成と意義―賀茂別雷神社と春日社を事例に―」
（『神道宗教』263号、令和３年）
「国家節会から神社年中行事へ―五月五日行事を事例として―」
（『神道宗教』第246号、平成29年）
『房総の伊勢信仰』（共著・雄山閣、平成25年）



学友とともに充実した学生生活を過ごそう

千葉県市川市で代々神職を務めてきた家に、次女として生まれました。幼い頃から神社の杜が遊び場で、身近な存在だったこともあり、自然とより深く神道を学びたいと思うようになりました。そして、國學院大學の文学部神道学科、さらに大学院へと進学しました。

４年間の学部での生活で、特に印象深い思い出は、同じ志を持つ仲間と全国の神社を参拝し、その歴史や文化に触れることで生じた興味や疑問などを、共に調べ、語り合ったことです。また、調べていく過程で先生とも密に話し合い、助言をもらいながら学びを深めていきました。

このような、何物にも代え難い貴重な経験こそが、私の研究の出発点となりました。

皆さんも素晴らしい環境の整った本学で、学友と互いに切磋琢磨して様々な事を学んで下さい。

准教授

星野 光樹 HOSHINO Mitsushige

令和８年度担当科目　神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ　祝詞作文Ⅰ・Ⅱ
神社祭祀演習Ⅱ・ⅢＢ　神社祭式特論
祭祀演習Ⅰ・Ⅱ（専攻科）

出身地
茨城県水戸市

専攻領域
祭式

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

学位
博士（神道学）

所属学会
神道宗教学会

主な著書・論文
『近代祭式と六人部是香』（弘文堂、平成24年）
『近代の神道と社会』〈共著〉（弘文堂、令和２年）



神職としての矜持が持てる未来をめざして

私はいわゆる社家ではありませんが、神職が奉仕する祭祀の実践規範ともいうべき祭式を教えています。

皆さんには、わが国の歴史と祭祀の意義を深く学び、大きな使命感と信念を培い、仲間と切磋琢磨し、謙虚な精神と慎ましい行動を身につけてもらいたいと切に願っております。

准教授

山口 祐樹 YAMAGUCHI Yuuki

令和８年度担当科目　神社祭祀演習Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢB
神道文化基礎演習　神道文化演習

出身地
宮城県仙台市

専攻領域
神道祭祀学　古代神道史　神社祭式

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

所属学会
神道宗教学会　神道史学会　禮典研究会

主な著書・論文
「中世移行期神宮祭祀の基礎的研究　『皇太神宮年中行事』にみえる祭儀次第の検討―正宮への参入・退出経路を中心に―
（『國學院雑誌』126巻２号 令和７年２月）
「古代伊勢神宮における祭祀所役について―禰宜職の増員と所役の変化―」
（『國學院雑誌』第123巻12号、令和４年）
「古代伊勢神宮における斎戒と神職」（『神道宗教』第258号、令和２年）
「古代伊勢神宮祭祀と大神宮司」（『國學院雑誌』第119巻９号、平成30年）
『事典　古代の祭祀と年中行事』〈共著〉（吉川弘文館、平成31年）
「古代伊勢神宮における「御鎰」の取扱いについて」
（『神道研究集録』第32輯、平成30年）
『國學院大學貴重書影印叢書　第四巻　日本書紀・古語拾遺・神祇典籍集』
〈共著〉（朝倉書店、平成28年）



確かな知識と奉仕の“こころ”を育もう

宮城県仙台市に生まれ、國學院大學文学部神道学科で神道を学び神職資格を取得しました。大学院修了後は伊勢の神宮に奉職、その後宮内庁掌典職などでの奉仕を経て、現在は都内の神社にて禰宜として奉仕しながら母校の教壇に立っております。神宮や掌典職では、神宮式年遷宮をはじめ宮中三殿の御遷座、そして大嘗祭と度々重儀に御奉仕する機会を頂戴しました。そこでの御奉仕は、いかに「先神事」の精神を実践できるかが問われた場でもあり、私の神職としての“心”の部分を成長させて頂きました。

学生の皆さんには、この４年間の間に幅広い視野をもって、学び、遊び、神職として必要な教養を深めると同時に、いつ神明奉仕の場に立つこととなっても臆することのないよう確かな知識と奉仕の“心”を養って頂きたいと思います。